

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日

2021年2月25日

派遣決定番号

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(3日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	恵那市	代表者名	小坂 喬峰
担当者部署	危機管理課	連絡先電話番号	0573-26-2111
担当者役職	主査	担当者氏名	原 和彦
住所	509-7292 岐阜県恵那市一丁目1番地1		
連絡先E-mail			

1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	市瀬 英夫
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	<ul style="list-style-type: none"> ICTに関する基礎知識が乏しい、または自治体を取り巻くICTの動向を知らない職員に向けたわかりやすい研修動画を作成いただいた。 職員からの質問に対して明瞭簡潔にお答えいただき、研修内容をより深く理解することができた。 研修の進行で市が戸惑った際にアドバイス等でサポートいただいた。
アドバイザーへの要望事項	

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2021年2月18日	13時30分	15時00分		90
	派遣形態	講演(オンライン)			

4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	職員	50人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	職員がICTに関する基礎知識が乏しいこと、自治体を取り巻くICTの動向を知らないことにより、業務及び施策に上手くICTを活用できない。また、コロナ禍でこうした職員全体に対する研修の効果的・効率的な方法を知りたい。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	国が推進するデジタルガバメント及び自治体DXを我が市が進めていくため、職員がBPRや業務標準化の必要性を学び、住民利便性を考慮したコストパフォーマンスの優れたシステム導入やクラウドサービスの移行を職員が意識し取り組めるようにする。	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	管理職(課長級以上)及び希望する職員に対する、ICT推進(自治体DX)についての講演講演に対する質疑応答	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	職員が、自治体を取り巻くICTの動向とこれから何をしていかなければならないかを知ることができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	<input checked="" type="radio"/> ⑦その他
	なし	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	なし	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 アンケート内容：①研修評価(内容は理解できたか、資料は有益だったか、講師は良かったか、時間は適当か) ②①の評価理由 ③研修の中で印象に残ったこと ④業務へどのように活用するか ⑤感想 結果：現状把握ができ、デジタル化の必要性を感じたという感想が多く、職員の意識向上に繋がった。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	<input checked="" type="radio"/> ⑤その他
事業の最終的な目指す姿	自治体DX推進計画に沿った恵那市のデジタル化推進	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

The screenshot shows a Zoom meeting interface. At the top, there are participant thumbnails for Hideo Ichinose, 上矢作振興事務所, and Harada Kazuhiro. The main content is a presentation slide titled "目指す姿 例2 (子育てノンストップ)" (Target Appearance Example 2 (Childcare Non-stop)).

子育てノンストップ基本コンセプト (サービスデザイン)

- ・日常的に用いるポータルが行政との窓口としても機能。
- ・利用者は、ポータルに利用者情報を登録することで、最適なタイミングで官民のサービスの案内を受けることが可能。
- ・利用者はポータルに登録した情報を基にボタン一つで官民の様々なサービスの申請・申込が可能。

The diagram illustrates the service flow:

- 利用者 (User):** Interacts with the portal via "情報登録" (Information Registration) and "申請" (Application).
- 民間子育てポータル (Private Childcare Portal):** Contains a "利用者DB" (User DB) and "行政手続" (Administrative Procedures). It provides "情報連携" (Information Linkage) to the local government.
- 自治体 (Local Government):** Provides "申請" (Application) and "サービス・情報配信" (Service/Information Distribution) to the portal.
- 民間企業 (Private Companies):** Provide services such as "健康・医療" (Health/Medical), "子育て記録" (Childcare Record), "金融" (Finance), "育児・家事" (Childcare/Housework), "買い物" (Shopping), and "イベント" (Events).

At the bottom of the slide, a URL is provided: <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/sankankyougikai/smartpublic/dai3/siryo>

The Zoom interface at the bottom shows 45 participants, chat, screen sharing, recording, and reaction options, along with a "退出" (Logout) button.